



知事が行く!
突撃取材! Part2
～三重のひと～

第22回

～安全・安心の農作物の生産へ～

地域から広がる

ギャップ
GAP認証の輪

インタビュー詳細版

(お話をいただいた方)

株式会社 林営農センター 代表

はやし ひでかず
林 秀和さん

(聞き手)

三重県知事 鈴木 英敬

GAP (Good Agricultural Practice) とは
日本語で農業生産工程管理という意味で、農薬の使い方、
土や水などの生産をとりまく環境、農場の労働者の状況な
どあらゆる工程を記録・点検・改善して安全安心な農作物
の生産につなげる取り組みのことです。



はやし ひでかず
林 秀和さん

知事：林さんにお聞きします。JGAP（日本で運営されているGAPの認証制度）の認証に取り組もうとした、きっかけを教えてください。

林：取得しようと思った決め手は、従業員の労働安全衛生です。機械は壊れれば、すぐに直せますが、人間の体はケガをしてもすぐに治せません。JGAPを導入すれば、ケガをするリスクを回避することができると思いました。

知事：GAPについては知らない生産者の方々もいらっしゃると思いますが、そのものを知ったきっかけは何ですか。

林：私は以前、建設業界で働いていました。さまざまなルールをもとに仕事をしていましたが、そのようなルールを農業でも導入できないか感じていました。そんな時、5年前でしょうか。県主催の農業経営の講習会に参加し、JGAPを知り、これはいいと思って取得を決めました。

知事：建設業をやっていた経験が生きたかもしれませんね。JGAPは食の安全を守るシステムと思っている方も多くいらっしゃいますが、それだけではなく、労働安全衛生の観点も取り入れた認証ということですね。取得後は、どのような効果がありましたか。

林：やはり従業員の労働安全衛生です。ケガがなくなりました。今は、やったかいいが良かったと思っています



JGAPの取り組みマニュアルについて教えてもらいました。

す。また、トレーサビリティ（農産物の流通経路を生産段階から最終消費段階まで追跡が可能な状態）が明確になり、誰が見ても安全・安心な食材を出荷できるようになりました。

知事：どんなルールを決めているんですか。

林：たとえば入室規定を決め、それを守ってもらえる方しか入室できないようにしています。また、安全に作業できるように細かい手順を決めてマニュアル化し実践しています。

知事：作業工程の手順をすべてマニュアル化しているんですね。

林：はい。生産から出荷までの各プロセスを「見える化」して、第三者に説明できるようにしています。たとえば乾燥機の工程では、農作物が獲れた場所や品種、いつ乾燥したかなど、すべて記録し貼り紙にしています。また出荷する農産物についても、誰が見ても分かるように品種名や数量などを記録しています。

知事：なるほど。生産や出荷の状況を第三者に説明して理解できるように、つねに透明化、見える化して実践しているということですね。でも、従業員さんたちは最初、「社長、そんな面倒くさいこと嫌だ」と言いませんでしたか。

林：確かに言っていました。

知事：そうですか。今はどうですか。

林：変わりましたね。はじめは私だけが取り組んでいましたが、徐々に従業員もやってくれるようになりました。今では従業員自ら率先して実践してくれるようになっていました。その結果、ミスも少なくなりました。JGAPに取り組んでよかったなと思います。

知事：それは素晴らしいことですね。続いての質問ですが、農業に取り組む中で、どういう時に喜びややりがいを感じますか。

林：4～5月に苗を植えて、段々と大きくなっていく様子を見ると嬉しくなります。また、自分が思っていたより、品質の高いものができて収穫量も多ければ、やりがいが出てきます。

知事：予測していなかった天候の変化など、さまざまなことで苦労し、ドキドキワクワクしながら長い時間かけて育てた作物を収穫した時は、達成感が大きいでしょうね。

林：大きいですね。

知事：建設業に携わりモノを作ったりしたら、それはそれで達成感があったと思いますが、また違う感じですか。

林：そうですね。一年に一回しか作れませんからね。



トラクターの作業前点検を見学させていただきました。



林さんは、生産工程すべてを記録して「見える化」することで、ミスが減り、安全・安心な食材を出荷できるようになると言います。



コメを中心に、麦や大豆などを栽培しています。



三重県が開発したブランド米「結びの神」を試食。
かめばかむほど甘みが出ます！

知事：三重県では7月の三重県GAP推進大会で「みえGAPチャレンジ宣言」を発表しました。今後、GAP認証の輪を広げていくために、どのようなことが必要だと思いますか。

林：どの農場でも、それぞれ決めたルールがあるはずです。そのルールをちょっとアレンジして、JGAPのルールに書き換えれば、誰でも簡単にできるはずです。

知事：それぞれの農場で、今も使っているルールをGAPのルールと照らし合わせて書き換え、それが見える化、明文化すればできるということですね。あまりハードルを高く構えなくてもいいんですね。

林：JGAPが普及すれば、これからの農場は、もっと変わるはずです。そして、三重県の農作物の安全性や信頼性を高めることができると考えています。

知事：ありがとうございます。林さんのように実践してくれた人が、次代の指導者となって、多くの人に普及してもらえたらと思っています。

では最後の質問ですが、地域の農業の若き担い手として、地域の農家の皆さんと一緒に取り組んでいきたいことを教えてください。

林：一番は環境保全に取り組んでいきたいと思っています。

知事：たとえば、どんなことですか。

林：農薬の残材処理などです。残った農薬を垂れ流ししないように、また、排水路に流れないように工夫したりします。

知事：なるほど。GAPのルールの中には、農薬の管理も極めて厳しく定められていますからね。そういうルールをみんなで共有し、環境によい農業を進めていこうということですね。

林：はい。

知事：ぜひ、頑張ってください。林さんのような若くて志の高い人たちが増えるように、僕たちも頑張ります。これからも力を貸してください。

林：お願いします。

知事：ありがとうございました。

林：どうも、ありがとうございました。



※インタビューの内容は、読みやすさの観点から一部要約等を行っています。
※記載内容、写真の無断転載を禁じます。
※内容に関するご意見・お問い合わせは、三重県戦略企画部広聴広報課まで

〒514-8570三重県津市広明町13
☎ 059・224・2788 FAX 059・224・2032
E-mail koho@pref.mie.jp